



A 試合会場レポート

試合番号 123

開催日 2023/12/17

令和5年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 男子 会場：東京体育館

観客数： 5,675	開始時間： 15:11	終了時間： 17:24	試合時間： 02:13	主審： 服部 篤史	副審： 山本 晋五
------------	-------------	-------------	-------------	-----------	-----------

ウルフドッグス名古屋



監督：Valerio Baldovin
コーチ：深津 貴之

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

1	27	第1セット 【 00:31 】	25	3
	29	第2セット 【 00:38 】	31	
	15	第3セット 【 00:23 】	25	
	23	第4セット 【 00:32 】	25	
		第5セット 【 】		

ポイント 【】内はセット時間 ポイント
- ()内は交代選手 -

パナソニックパンサーズ



監督：ティリ ロラン
コーチ：白澤 健児

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

<監督コメント>

両チームにとって信じられないくらい高いレベルでの試合だったと思いますし、相手チームがとても重要な場面で良いプレーをしていたので、大変厳しい試合となりました。この試合は最初から最後まで、一瞬の気も抜けない攻防が繰り広げられたと思います。

選手達には本当に感謝しています。毎日厳しい練習をしてくれていました。そして、チームワークにおいても非常にレベルの高い意識のある選手達です。

我々のスタッフたちはこの大会に向けて、素晴らしい仕事を準備してくれました。そして、ウルフドッグス名古屋を支えている全ての関係者に感謝申し上げます。

最後になりましたが、この会場を我々のホームゲームのように感じさせてくれたファンの皆様から感謝申し上げます。

27	KUREK	王	第1セット	エバデーダン	ジェスキー	25
	()	()		()	()	
	山崎	高梨		西田	深津	
()	()	()	(新)	(西山)		
傳田	永露	大塚	山内	(近)	()	
()	()	()	()	()		
リペロ： 小川		リペロ： 山本				
29	山崎	KUREK	第2セット	エバデーダン	ジェスキー	31
	()	()		()	()	
	傳田	王		西田	深津	
(近)	()	()	(新)	(清水)		
永露	高梨	大塚	山内	()	()	
()	(市川)	(仲本)	()	()		
リペロ： 小川		リペロ： 山本				
15	KUREK	王	第3セット	山内	仲本	25
	(椿山)	()		()	()	
	山崎	高梨		深津	西田	
()	(山田)	()	()	()		
傳田	永露	ジェスキー	エバデーダン	()	()	
()	(中野)	()	()	()		
リペロ： 小川		リペロ： 山本				
23	近	山崎	第4セット	ジェスキー	深津	25
	()	()		()	()	
	永露	KUREK		エバデーダン	山内	
()	()	()	()	()		
高梨	王	西田	仲本	()	()	
()	()	()	()	()		
リペロ： 小川		リペロ： 山本				
	()	()	第5セット	()	()	
	()	()		()	()	
	()	()		()	()	
リペロ： 小川		リペロ： 山本				

<監督コメント>

WE ARE CHAMPIONS!
非常に素晴らしい試合でした！
たくさんの応援ありがとうございました。

<要約レポート>

2年ぶりの優勝を目指すウルフドッグス名古屋と、パナソニックパンサーズの天皇杯決勝戦。

第1セット、互いにサーブで狙うも、粘り強くあげて多彩な選手が得点をあげる。序盤、パナソニックが西田、ジェスキーのサーブ、更に大塚の強打、エバデーダンのサーブでリードする。WD名古屋も山崎のサーブから王のブロックで逆転する。デュースに突入すると、WD名古屋は永露が技ありなツーアタックをみせ、セットを先取る。

第2セット、WD名古屋は高いブロックや高梨の強烈なサーブ、パナソニックは深津の多彩なトスワークで、点差がつかずゲームが続く。中盤、WD名古屋クレクの軟打、連続サーブミスで抜け出す。対するパナソニックは新、清水を投入。直後に清水のブロックで反撃を開始するも、WD名古屋はクレク、王のアタックやブロックでリードを広げる。パナソニックは西田のサーブと大塚のアタックで迫り、このセットもデュースに突入する。パナソニックが仲本のサーブで崩し、西田のアタック、山内のブロックでセットを取り返す。

第3セット、パナソニックは深津のサーブで抜け出すと、西田、仲本のサーブでリードを広げる。WD名古屋はセッターを中野、アタッカーを椿山・山田に代えるが、流れは変わらず、パナソニックがセットを連取する。

第4セット、パナソニックはレシーブが安定し、アタッカーが十分に力を発揮し点を重ねる。WD名古屋はクレク、高梨、近がアタックでみせるも、連続得点につながる要所をパナソニック・ジェスキーのアタック、西田のブロックで阻み、パナソニックがチャンピオンシップポイントを迎える。そこでWD名古屋は高梨のサーブ、クレクのアタックで追い込むも、最後はパナソニック西田のアタックが決まり、5大会ぶり5回目の優勝を飾った。

作成者：高澤 佳江